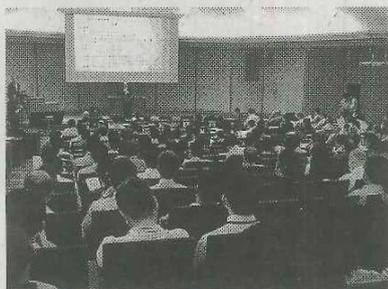


# 建設通信新聞

日測協のイノベーション大会

## 有意義な交流の場に

日本測量協会(清水英範会長)は11、12の両日、東京都文京区の東京大学伊藤国際学術研究センターをメイン会場に、「測量・地理空間情報イノベーション大会2024」を開いている。全国9支部のサテライト会場を結んで測量・地理空間情報に関する技術とそれを利用した新事業の展開、人材育成や教育研修など、同分野の技術革新に役立つ幅広い議論と情報発信の場とする。約2600人が参加登録している。スポンサリストの会とジオメトリストの会が共催する。



11日の開会に当たり、清水

会長は「測量・地理空間情報分野の方々には社会から注目され、ニーズも大きい。多忙であることに加え、コロナ禍の時代の生活習慣を背景に、同僚以外と交流する機会があまり取れないという方も多いと聞く」とした上で、「当大会を効果的な勉強の場、有意義な交流の場として最大限に活用してほしい」とあいさつした。

この日は、空間情報技術の最新動向や地殻変動観測からみた能登半島地震に関する特別講演のほか、IoT(モノのインターネット)やビッグデータ、AI(人工知能)などへの航空測量大手4社の対応、ソクジヨの会の活動に関するパネルディスカッションがあった。12日は、能登半島地震への災害対応、準天頂衛星、GNSS(衛星測位システム)などの最新動向の講演と、近年の災害対応事例を基にしたパネルディスカッションなどを行う。

会場では、能登半島地震災害対応展示やポスター展示な

ども実施している。東京会場のプログラムは、協会支部のサテライト会場にも同時配信。7月1日から21日まで、オンデマンド配信も実施する。